

別記様式（第5関係）

会 議 録

会議の名称	青嵐中学校建替協議会（第8回）
開催日時	平成15年 6月19日（木） 午後1時30分から4時30分まで
開催場所	町田市立鶴川中学校（視察）
出席者	（委員）谷澤会長、柴田副会長、西原委員、稲津委員、鈴木委員、岡田委員、杉本委員、宮本委員、安藤委員（代理榊原主事）、（欠席豊島委員、蓮見委員、篠宮委員） （事務局）茂又教育長、田口部長、二谷課長、神田主幹、砂押係長、福田主査、町田主任、守矢主事
議 題	町田市立鶴川中学校視察
視察資料	・町田市立鶴川中学校学校案内（パンフレット）・「鶴川中学校移転新築検討委員会」報告書・学校視察資料・鶴川中学校校舎移転新築工事資料（2種類）・鶴川中学校新校舎（パンフレット）・まちだの教育（2002年3月21日号）
視察内容	<p>学校施設を見学し、その後、ホールにて説明を受けた。</p> <p>（注）西東京市より、教示事項として、事前に町田市に依頼してあったので、回答を記録したものである。</p> <p>1. 建替計画にあたっての基本的な考え方について （回答）町田市基本構想・基本計画にあるように、町田市は多摩丘陵に抱かれた豊かな自然環境を持つ市民文化都市を目指すと共に「一人ひとりの個性が光る教育・文化のまちづくり」を目標の一つに掲げている。いつも身近な自然と共に生活があって、心も体も豊かな暮らしが市民の願いである。緑や水の保護保全と活用、リサイクル公社に見られるゴミ減量・資源化の促進、スポーツ施設開放や市民大学に代表されるように向上心に満ちた多彩な生涯学習社会の構築、「町田市子ども憲章」に見られる青少年の主体的な地域活動、情報公開制度等開かれた市政、そして、ボランティア活動や障害者福祉施設の整備に見られる自主と連帯の精神でつくる福祉と健康、都市農業への基盤整備などに町田らしさがあり、総合的に推進されている。こうした町田らしさの視点に立って、学校もあるのである。</p> <p>3ページの（2）開かれた学校の ~ の視点をもとに計画されており、また、「教科教室型」学習システムの導入を計画する必要があった。</p> <p>1. 建設概要について 3. 概算工事費について （回答）「鶴川中学校校舎移転新築工事」に載っているとおりである。植栽工事についてであるが、木については、東京都の苗木を利用し、手間賃のみであった。また、地域開放している温水プール委託料については、年間3,200万円、体育館委託料年額約6,200万円、温水については、太陽熱34%、ガスボイ</p>

ラーで年額約1,000万円かかっている。電気代については、年額約1,700万円、上下水道年額約3,500万円、合計年間維持管理費は約1億6千万弱になっており、市内の他の学校の約2倍かかっている。

4. 建替計画に対しての市民等の参加について

(回答)「鶴川中学校移転新築検討委員会」の鶴川中学校移転新築事業経過にあるように、鶴川中学校PTAアンケート調査を行い、説明会については、平成9年11月に、下堤地区協議会への説明会を開催し、平成10年7月に、鶴川中学校体育館にて、第1回住民説明会を開催、同年11月、下堤集会所で地元住民説明会、第2回住民説明会(基本設計プラン)を開催。平成11年3月、下堤集会所で地元説明会を開催。同年4月、第3回住民説明会を開催(基本設計報告)。平成12年2月、下堤地区工事説明会を開催した。

5. 学校施設の開放について

(回答)学校開放については、スポーツ開放委員会(PTA)が運営している。教室、小ホールについては、社会教育課、校庭、体育館、温水プールについては、スポーツ振興課が管轄しており、料金については、温水プールについては、大人200円、65歳以上と障害者は100円、子ども50円となっており、教室開放(小ホール等)については無料である。

6. 教科教室型について

(回答)生徒アンケート調査を実施しており、「学校視察資料」にアンケート調査結果を掲載している。ホームベースという場所が、生徒がお弁当を食べたりする場所であるが、10分間の休み時間については、教科教室で過ごすことが多く、また、教科教室型の場合、生徒が孤立してしまうことがあるので、カウンセリングに力を入れている。先生の立場からは、教科教室型は非常にやり易い状況である。

7. 竣工式について

(回答)平成14年1月30日に、2部構成で行い、第1部は体育館にて、午前10時から午前11時まで、学校教育部長の司会にて行い、助役の開会のことは、教育長の経過報告、市長、教育委員長、鶴川中学校校長の挨拶を行い、町田市議会議長、鶴川中学校PTA会長、国会議員、都議会議員の祝辞をいただいた。

第2部については、午前11時10分から11時40分まで行い、鶴川中学校教頭の司会で、ブラスバンド、お囃子を行った。

続いて内覧を午前11時50分から午後12時50分に行い、3、4グループに分けて、施設課の案内説明にて実施した。

レセプションについては、午後1時から2時まで格技室にて、立食で行った。

8. その他

(校長)教科教室型は、生徒の居場所がない、心の逃げ場がないという問題点がでてくるが、居場所を見つけてやるのが非常にむずかしく、心のケアの部分が大事であり、一人一人に目を向ける必要がある。

また、校舎が円形になっているため、教室が曲がっているが、子どもは慣れるが、大人はなかなか慣れない。

(質問)教科教室型を導入した経緯を教えてください。

(町田市教育委員会回答)

指導主事の先生が中心となって、先生が中心ではなく、生徒が中心となってやる大学のような感じで、自分から授業に行くんだという観点から導入した。

(質問)部活動等はどういう状況なのか。

(鶴川中学校教頭回答)

部活の発表は、PTAに協力してもらい、部活の発表を行っており、文化祭は廃止した。学級づくりは、体育大会、合唱コンクール、遠足等の行事を通じ、行っている、

(質問)構造上で、混乱は起きていないか。

(鶴川中学校教頭回答)

生徒がいなくなったりすると、先生間で携帯電話を使用し、連携をとり探すこともある。火災時は、生徒個々が、いる場所から外に出てもらおうことになっていて、校舎から出にくいことはない。